

九手連広報紙

はっけん

2008・7月号

掲載内容

- ・ 第34回九州手話サークル連絡協議会評議員会
- ・ 幹部研修会
- ・ 第16回九州手話サークル連絡協議会研修会

6月21日、福岡県春日市において本会の評議員会が開催されました。当日は九州各地での大雨による影響が懸念される中での開催となりました。そうした中、大久保議長(鹿児島)による議事進行の下、執行部から出された事業計画及び予算案等の議案はすべて承認されました。また、各県から選出された新役員も承認を得ました。20年度の新役員は下記の通りです。

< 20年度新役員 >

会 長	中元 教博(大分)
副会長	神田 みどり(大分) 森 保夫(熊本)
理 事	祐下 明(福岡) 山口 美由紀(佐賀) 谷脇 章子(長崎) 森 保夫(熊本) 大久保 由美子(鹿児島) 森田 良雄(宮崎) 神田 みどり(大分)
監 査	未定(宮崎) 未定(長崎)
事務局長	前淵 洋一(熊本)
顧問	村本 宗和(熊本)

「手話の輪」を拡げ

揺るぎない「九手連」を!

会長 中元 教博

九手連会長として、2年目を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

九手連34年の歴史を振り返り、昨年は「いま私達は何をなすべきか」を研修テーマに上げ、原点に立ち戻り各サークルへのアンケートをお願いしてまいりました。そこで見えてきたものは、如何なる時でも目的は同じだが、社会環境や情勢変化に伴い私達に求められている事は日々変化をしていると言うことです。

また、先の九手連研修会でも提起されたように、当事者団体を始め私達の団体も多くの課題が山積しております。これらの課題を取り組むにあたり、強い信念のもと「手話の輪」を拡げ、揺るぎない「九手連」を築き上げて行きたいと考えております。迷走しながらも大地を踏み固め、当事者団体とともに歩んでいきたいと考えています。そのためにも情報交換を密にしながら、変化に柔軟に対応した活動を展開し、共に取り組みを進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

< 幹部会議 >

事前に各県でおこなったアンケート結果を基に、各県が抱えている手話サークルの現状等について代表者から報告してもらい、情報交換が行われました。各県で共通しているサークルの問題点としては、会員(参加しているろうあ者も含む)の高齢化や一部の会員への負担増加などが挙げられました。こうした

問題点解消のためにどうしたらよいか？また、手話サークルとはどうあるべきなのかについて話し合われました。詳しい内容については各県理事にお尋ねください。



< 第 16 回九手連研修会 >

今年から名称を「九手連研修会」に変更しての開催となりました。梅雨前線の影響による前日からの大雨で、参加者の出足が心配されましたが、当日は雨も小降りとなり、当日参加も含めて約 200 名の参加を得ました。



午前中は、ろうあ者としては初めて薬剤師資格を取得した早瀬久美氏による講演がありました。午後からは、開催地の福岡県ろうあ協会所属の青年部会員 2 名と、午前中講演の早瀬氏も交えて、九手連中元会長進行の下「今後の手話サークルを考える」というテーマでパネルディスカッションを行いました。以下は参加者からの報告です。

講演「ろう問題について語る」

講師 早瀬 久美氏



6月22日(日)にクローバープラザで開かれた、第16回九手連研修会に参加して参りました。講演の講師は早瀬久美さんで「ろう問題について」語っていただきました。まだ社会の中にはさまざまなバリアがあること。特に人々の意識の面で「知っていて差別すること」と「知らなくて差別すること」があると話されました。以前、ご主人と焼き肉屋さんに行ったとき、店員さんに「聞こえない」というジェスチャーをすると、点字のメニューを持ってこられたそうです。「知らない」ことが、相手を傷つけてしまうことについて改めて考えさせられました。まず、自分の周りの人にろう者や手話について伝えていかなければと思いました。

また、聴覚障害者にやさしい医療現場とは？について、患者や通訳者、医療従事者のそれぞれの立場での現状と課題のお話がありました。特に、通訳者は内容をろう者に分かりやすく意識してしまうことが多いが、直訳して分からないところを質問する形にしてほしいという要望がありました。医療専門の通訳者の養成も今後必要になるというお話でした。そして、昭和大学病院には、聴覚障害外来が開設されているそうです。今後、全国的にもこのような外来が普及していけば...と思いました。

最後に、新しい手話についていくつか紹介がありました。時代の流れに合わせて、いろいろな方々が力を合わせて、新しい手話を考

え作り出されているようです。

一日研修会に参加して感じたことは、本当に早瀬さんはアグレッシブですてきな女性。同じ女性としてもとても憧れる存在です。ろうの子どもたちが、将来自分もあんな先輩になりたいと思えるように、早瀬さんのことを子どもたちに伝えていけたらと思いました。

田中真紀子（熊本宇城わかぎ）

パネルディスカッション

「今後の手話サークルを考える」

パネラー

早瀬 久美氏

福永 美紀氏（福岡聴覚障害者団体連合会）

鈴木 玲雄氏（福岡市聴力障害者福祉協会）



早瀬久美さんと福岡の青年部、鈴木玲雄さん福永美紀さんの3人をパネラーにお迎えしてディスカッションが行われました。

九州各県から来場したサークル会員も参加して、それぞれのサークルの現状・活動内容を報告し、それを基にたくさんの意見が交わされました。

サークル会員数やろう者の参加人数の減少、活動のマンネリ化など問題は多岐にわたり、限られた時間の中でそう簡単にコレだ！という結論には至りませんでした。各サークルが抱える様々な問題を解くヒントを得られたのではないかと思います。

とわかったような事を書きましたが、僕は手話歴1年ほどのペ〜ペ〜ですので・・・まずは自分に出来ることから始めたいと思います。

それは、とにかく手を動かすこと！

鈴木玲雄さんが言われた「家に帰るまでがサークルです」の言葉を胸に活動が続けていきます。

サークル会員一人ひとりが、自分に出来ることを考え、実践していくことが大切だと思いました。

福岡手話の会（南支部）山口 純



編集後記

暑い暑い日々が続いています。皆さんはいかがお過ごしでしょうか？

さて、この度初めて「はっけん」の作成を担当しました。今回は福岡県で開催された評議員会、幹部会議と研修会の様子を取り上げました。期間中は梅雨前線の影響による交通網の乱れで、遠方からの参加者は大変だったと伺っています。参加された皆様、ご苦勞様でした。

A/S

九州手話サークル連絡協議会

（事務局）〒866-0892

熊本県八代市古閑下町1717-43

前瀬 洋一 0965-35-2653

発行責任者：中元 教博

広報担当者：祐下 明（福岡）

発行年月日：平成20年7月31日